2　地理歴史・公民

学校番号	303

平成 31 年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ａ	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校　改訂版　日本史Ａ　人・くらし・未来（第一学習社）						
副教材等	新詳　日本史（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・現在の私たちも歴史のなかに存在します。中学校で学んだ「歴史」を確認しながら、歴史の時間軸を意識しましょう。
・覚えることに終始しがちな「歴史」学習に「なぜ？」という視点を持ちましょう。
・現在の日本が形づくられた歴史を学ぶことで、過去と現在のつながりを見つける力と未来への展望を考えることができる力を養います。

2　学習の到達目標

・歴史を考察する上で必要な基本的方法を理解させると共に、必要な通史を理解させる。
・歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けながら歴史的思考力を養う。
・世界史的視野に立って総合的に考察し、日本の文化・伝統について認識を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日本史の出来事を人物・事件を中心に考察し、その背景にある歴史的な流れ、あるいは制度の変遷などに興味・関心を持つようにする。	歴史の流れとその結果について考察し、多様な要因を理解し、その過程や結果を適切に表現している。	日本史の史料や統計などの様々な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	歴史の流れの考察と、現在の日本がどのように成立したかという理解をつうじて、これからの在りようを考えていく。
評価方法	プリント課題 (ワークシート) グループワーク	定期考査 プリント課題 （ワークシート） グループワーク	定期考査 プリント課題 （ワークシート） グループワーク	定期考査 プリント課題 （ワークシート） グループワーク

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	(1)私たちの時代と歴史	日本のなりたち 奈良時代⇒平安時代前期・中期・末期⇒鎌倉時代⇒室町時代⇒安土桃山時代⇒江戸時代	○		○	◎	a自分自身を歴史のなかに位置づけて社会の変化を理解しようという意欲が高まっている。 c教科書に掲載している図版・写真の伝える意図を十分に理解し，活用している。 d自分自身があゆんできた時代・社会について，理解している。	授業態度 発問評価 提出課題 プリント提出
	(2)近代国家の形成と国際関係の推移	第2部 第1節　近代への胎動 ①せまってくる外国船 ②ちからを蓄える庶民 ③近代思想のいぶき ④揺らぐ幕藩体制		◎		◎	b江戸時代後期の政治・社会・経済・文化が，このあとの時代の前段階であることを理解し，考察している。 d江戸時代後期の日本の状況を，世界情勢と関連づけて，正しく把握しているか、江戸時代後期に至るまでの経緯について，正しい理解を身につけている。	授業態度 発問評価 提出課題 定期考査 プリント提出
		第2節　明治維新 ①黒船がやってきた ②志士たちの時代 ③手を結ぶ薩長 ④近代との出会い ⑤江戸幕府が終わり新政府へ	◎	○	○	◎	a幕末から明治に至る動きを，一連の流れとしてとらえようとしている。 b明治維新の一連の動きを，近世後半からの流れと関連づけて考察している。 c教科書に掲載している図版・写真の伝える意図を十分に理解し，活用している。 d幕末から明治に至る動きのなかで，尊王攘夷運動から討幕へ移る流れをきちんと把握して理解している。	授業態度 発問評価 提出課題 定期考査 プリント提出
		第3節　近代国家の確立 ①江戸が東京になった ②天皇の軍隊がつくられた ③スローガンは「富国強兵」 ④欧米文化がはいってきた ⑤日本の国境が定まった ⑥爆発する農民や士族の不満 ⑦国会開設が決まった ⑧地主制が進行した ⑨立憲政治がはじまった ⑩国会がはじめて開かれた	○	○	○	◎	a自由民権運動から大日本帝国憲法制定までの流れを，一連の動きのなかで理解しようとしている。 b明治政府による初期の諸政策の目的を，前時代との違いや問題点を含め，幅広い視点から考察している。 c教科書に掲載している図版・写真の伝える意図を十分に理解し，活用している。 d士族の反乱，自由民権運動，政党の結成，憲法制定の経緯や背景について理解し，また，それぞれがつながりをもっていることを理解している。	授業態度 発問評価 提出課題 定期考査 プリント提出

2学期	(3)両大戦をめぐる国際情勢	第4節　国際関係の推移と近代産業の発展 ①欧米と肩を並べる国をめざして ②清国との対立が深まった ③藩閥と政党が接近した ④ロシアとの戦争がおこった ⑤アジアへの勢力拡大がはじまる ⑥国民の生活が圧迫された ⑦綿糸と生糸が支えた産業革命 ⑧欧米の資本主義に仲間入りした ⑨貧富の差が広がった	○	○	○	◎	a日清・日露戦争を経て，日本が変わった点について，理解しようとしている。 b条約改正の過程で，日本側の要求と，これに応じる欧米の対応を，当時の国際情勢をふまえて考察している。 c教科書に掲載している図版・写真の伝える意図を十分に理解し，活用している d条約改正の目的とその経緯・結果について，時系列に把握している。	授業態度 発問評価 提出課題 定期考査 プリント提出
		第1節　第一次世界大戦と日本 ①民衆が政治を動かしはじめた ②最初の世界大戦に日本も参戦した ③成金の時代がやってきた ④朝鮮・中国の民衆が立ち上がった ⑤日本は欧米に歩調をあわせた ⑥「平民宰相」が登場した ⑦抑圧からの解放をもとめて ⑧新しい文化とモダンな都市が生まれた ⑨学問と芸術に新風が吹く	◎	○	○	◎	a政党政治の展開と民衆運動の高揚との因果関係について理解しようとしている。 b第一次護憲運動・第二次護憲運動などの動きから，政治に与えた民衆の影響力について理解している。 c教科書に掲載している図版・写真の伝える意図を十分に理解し，活用している。 d第一次世界大戦が日本に与えた影響について正しく理解している。	
		第2節　第二次世界大戦と日本 ①恐慌の嵐が吹きあれる ②日本の外交が行きづまる ③軍部の暴走がはじまった ④中国との長い戦いがはじまった ⑤戦争の影が文化におよぶ ⑥すべてが戦争に協力させられた ⑦アメリカとの戦争がはじまった ⑧戦争が拡大する ⑨アジア・太平洋の諸民族にかかわった ⑩生活も戦争に染まった ⑪戦争が終わった	◎	○	○	○	a戦争による国民統制の事実について理解し，国民生活に与えた具体的な影響について関心が高まっている。 b日本の戦争に至る経緯を，国内的な軍部の台頭による政治状況の変化，経済の動向，国際関係の変化に着目して，考察している。 c教科書に掲載している図版・写真の伝える意図を十分に理解し，活用している。 d日本の戦争に至る経緯について，時系列に正しく把握している。	

3学期	(4)現代の日本と世界	第1節　日本の再出発 ①占領軍がやってきた ②日本が生まれかわる ③新しい国のしくみ ④飢えとのたたかい ⑤飢えのなかでも解放感があった ⑥民主化から経済復興へ ⑦復興への転機到来 ⑧複雑な環境のなかでの独立	◎	○	○	◎	a連合国の占領、日本国憲法の制定、戦後の国民生活、日本の主権回復に至る経緯について理解を深めようとしている。 b占領政策と連合国側の意図、国民生活の実態と政治・経済政策、平和条約締結と国内外の動きを関連づけて考察している。 c教科書に掲載している図版・写真の伝える意図を十分に理解し，活用している。 d日本国憲法の意義、大日本帝国憲法との違いを正しく理解し、主権回復に至る経緯を国際情勢と関連づけて把握している。	授業態度 発問評価 提出課題 定期考査 プリント提出
		第2節　独立後の政治と経済の発展 ①平和への願いが叫ばれた ②保守と革新の正面衝突 ③奇跡の経済成長がはじまった ④奇跡の経済成長の影 ⑤あらたな戦争にまきこまれた ⑥豊かさと中流意識	◎	◎	○	○	a主権回復後の政治の動き、高度経済成長期の社会と国民生活について関心を高める。 b主権回復後の条約締結や法律制定の背景と問題点について理解し、高度経済成長を政治・経済の面から考察している。 c教科書に掲載している図版・写真の伝える意図を十分に理解し，活用している。 d主権回復後の国内動向と政治的背景、高度経済成長の成果と問題点について正しく理解している。	
		第3節　現代の日本と世界 ①2つのショック ②経済大国が誕生した ③消費はファッションになった ④バブルはこうしてふくらんだ ⑤大きな歴史の転換をむかえた ⑥政局と経済が混迷する ⑦これからの日本について考えてみよう ⑧時代の転換点に立って	○	◎	○	◎	a石油危機後の社会情勢と現在の生活環境との関連性、国際社会において日本が果たすべき役割について関心を深める。 b国際社会における日本の役割や課題を国際情勢の動向を踏まえて考察する。 c教科書に掲載している図版・写真の伝える意図を十分に理解し，活用している。 d石油危機以降の動きを国内外の情勢を踏まえ正しく把握することで、現在の日本の諸問題を理解し、そのために何が必要かの意見をもつ。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c：資料活用の技能　　d：知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について◎を付けている。